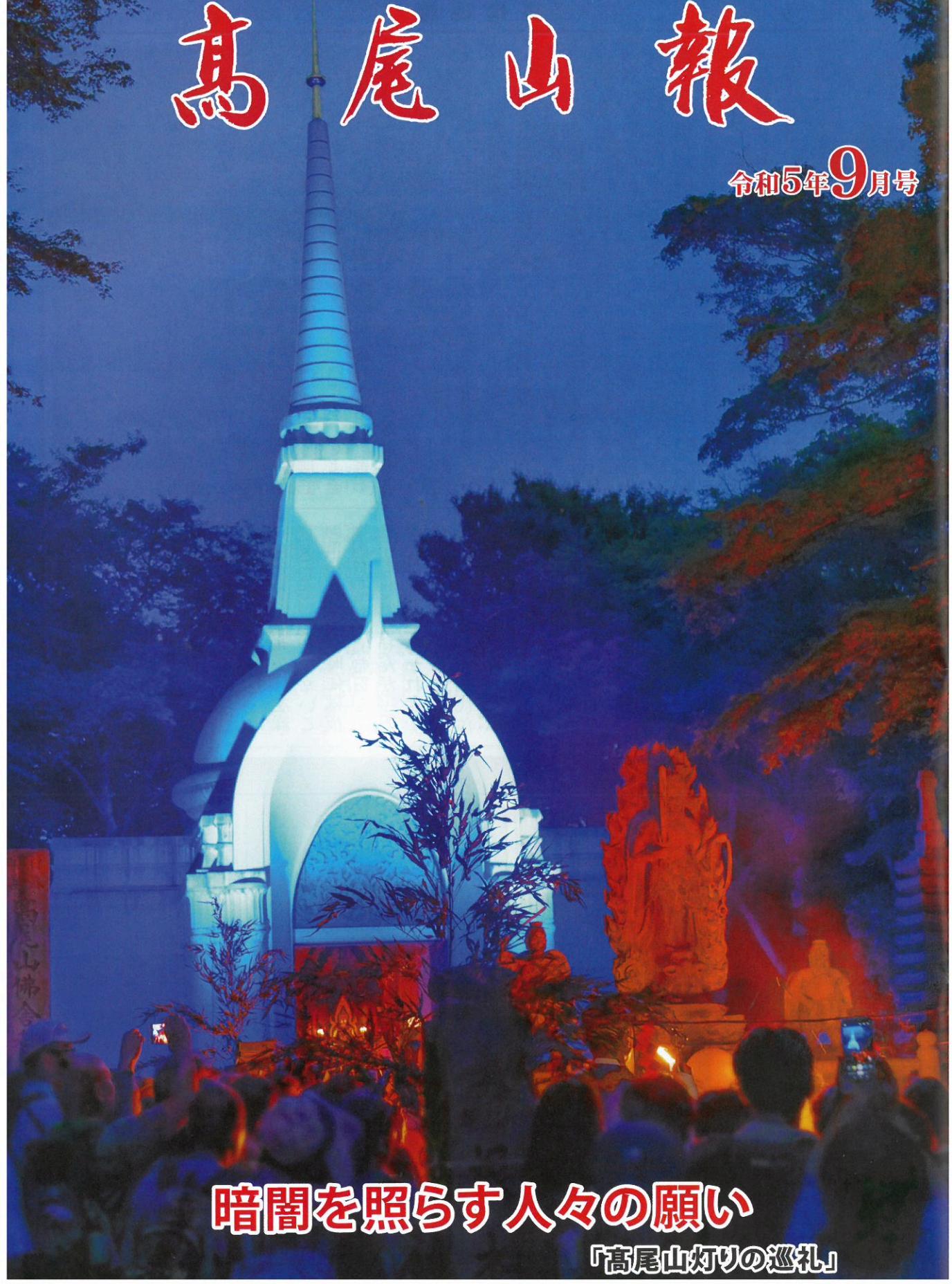


# 高尾山報

令和5年9月号



暗闇を照らす人々の願い

『高尾山灯りの巡礼』



飯綱山を登拝し奥宮を参拝した



暗闇の中厳粛に柴燈護摩が執り行われた

# 飯縄山火まつり

厳修に先立ち早朝より、佐藤貫首先達のもと高尾山修験道山伏の一行は飯綱山奥宮を登拝致しました。今回佐藤貫首は高尾山主として初めて飯綱山（一、九一七メートル）に登り、奥宮にて法樂をお勤めされました。

奥宮で御神火を頂き山麓の会場へと運び、その御神火にて佐藤貫首大祇師のもと柴燈護摩を厳修致しました。

黄昏時次第に夜の帳じよがれが下りる中、道場内を煌々と照らす柴燈護摩の炎に、参列者は祈りを捧げました。

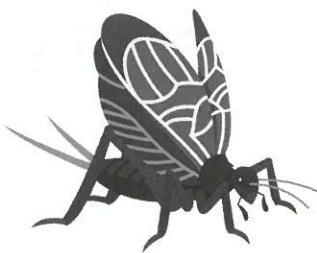
かれた言葉の移り変わりを感じます。さて、茹で栗の恨みから始まつた験競へは、どちらが勝つか分からないほど拮抗していました。結局、どのような結果となつたのでしょうか。話は次のようになります。

その時大師は策をめぐらして、弟子たちを市へやつて葬具を買わせました。そして「空海はもう死くなられたので葬式の道具を買いに来た」と噂を吹いて回らせました。

ちまちに死んでしまった  
のでした。  
後に大師は「修円とは  
どのような人だつたのだ  
ろう」と思い、魂を招き  
返す修法を行ふと、壇の  
上に軍荼利明王が立ち現  
れます。大師は「やはり、  
修円は徒人（普通の人）  
ではなかつた」と言つて、  
すべてを終わりにしたの  
でした。

これを思うと、菩薩が  
このような殺生を行われ  
たのは、その後の修円の  
悪行を止めようとしたた  
かた

未来の悪事を防いだと締め括っています。その道がたをもようじゅうじゅうと名づけたのであります。栗棘蓬と謂ふ。



「暑<sup>あつ</sup>さの果<sup>は</sup>ても彼岸<sup>ひがん</sup>ま  
で、寒<sup>さむ</sup>さの果<sup>は</sup>ても彼岸<sup>ひがん</sup>  
で」 という江戸時代の諺<sup>ことわざ</sup>  
があります。八月から続<sup>つづ</sup>いている残暑<sup>さんしょ</sup>も、「果<sup>は</sup>て  
(区切り) のお彼岸<sup>ひがん</sup>岸<sup>き</sup>を過<sup>く</sup>  
ぎれば少しづつ和<sup>わ</sup>らいで  
くるでしようか。

似た穂を持つ植物です。穂を吹き動かす風を「萩風」と呼び、それは何かを招く「招ぎ風」として、秋の虫たちも近くにまで掛けられます。そよそよと吹きわたる風に乗つて、秋の虫たちも近くにやつて来たのでしようか。涼やかな音色が、胸の奥まで沁み入ります。

しよう。区切りのお彼岸を過ぎれば、中秋の名月（十五夜）。今年は十月二十日夜。今年は九月二十九日や後の月（三十九夜）も巡ってきます。

この「験」はもともとは似た響きに「驗競べ」とあります。験担ぎは「良い結果が出た行為を繰り返し行う」ことですが、この「験」に似た響きに「驗競べ」といふことがあります。

「縁起」<sup>えんぎ</sup>という言葉だつたそうです。江戸時代に逆さ言葉で話すようになり、それがやがて「げん」に変化していつたと粹な遊び心から生まれました。



澄み切った空気の中で輝く中秋の名月

夏の盛りの中、高尾山子供やまぶし修行体験会が、四十名の子供の参加をもつて開催されました。山麓の不動院で保護者達と別れ、先達の山伏と共に琵琶滝水行道場を目指して出立。水行では滝に打たれながら、山伏から問い合わせられた御本尊様とのお約束として「お友達と仲良く出来ますか?」「好き嫌いせずにご飯を食べられますか?」等の質問を受け、元気よく「はい!」と答えておりました。

その後、険しい山道を汗をかきながら登り、薬王院へと向かいました。到着後には大本坊にて精進力レーライスの昼食を頂きました。

昼食後には腕輪念珠製作、出来上がった念珠は大きさや色使いが様々で、オリジナルの腕輪念珠となりました。その後大本堂にて、犬山執事長導師のもと厳修された御護摩修行で、腕輪念珠をお加持致しました。

不動院での閉会式では、参加者一同でご本尊・飯縄大権現様へ、本日の修行の成果を今後の生活に生かすことを約束する「誓いの言葉」を奉告。最後には、保護者達の見守る中、修行を終えた証となる、「修了証」が授けられ、開会式の時は初めて出会う人たちが多く緊張していた様子でしたが、閉会後には修行会を通じて仲良くなつた友人と別れを惜しみながら帰宅しました。



元気良く滝行を修す



犬山執事長と記念撮影



オリジナル腕輪念珠を作る



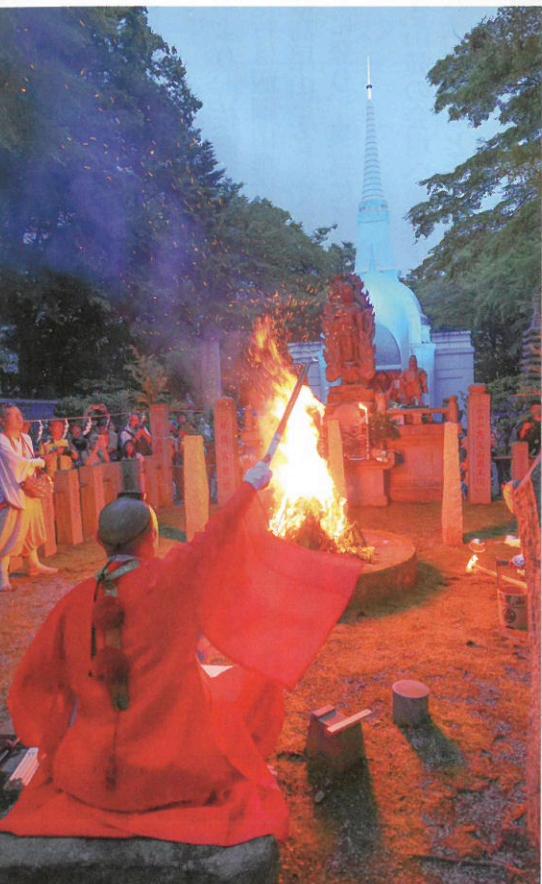
険しい山道を登る



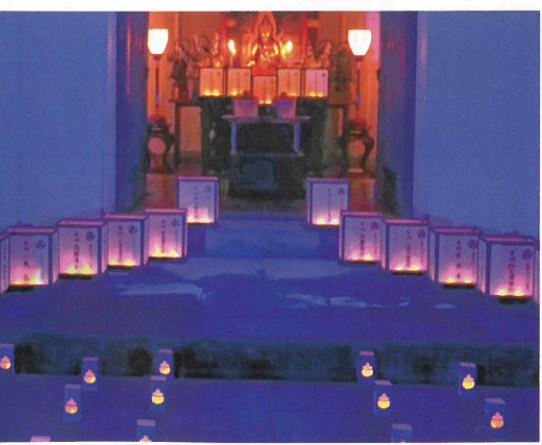
八月六日(日)

人々の願いが世界を照らす

# 夏の高尾山 清涼体感めぐり「灯りの巡礼」



佐藤貫首導師のもと柴燈大護摩供が厳修された



御信徒様より奉納頂いた紙燈籠が並ぶ

日本の文化と自然を満喫する『夏の高尾山 清涼体感めぐり』が七月二十一日から三十一日まで開催されました。八月十九日には「灯りの巡礼」が行われ、参道の春日燈籠に灯が点され、夕暮れ時の有喜苑において佐藤貫首導師のもと柴燈大護摩供が厳修されました。法要では疫病退散や御信徒の皆様の身上安全など諸願成就をご祈念申し上げました。

仏舎利塔はコロナウイルス禍で尽力された全国の医療従事者に感謝の念を届けるため「ブルーライトアップ」により青く輝き、その周囲では御信徒様から御奉納頂きました数多くの紙燈籠に各々の願いが込められた灯りが燈され、大勢の参列者は、灯りを見つめて祈りを捧げておりました。

また、八月十九日から二十七日まで「高尾山 夏のライトアップ」が開催されました。浄心門から四天王門や仁王門等、大本堂までの道のりがライトアップされると、普段目にすることのない薬王院とは異なる幻想的な光景に、参拝の皆様は見入つておられました。期間中は同様にライトアップされた天狗像の前で、訪れた大勢の参拝の方々に辻説法が行われました。



夜の境内に参拝する御信徒に向け辻説法をする佐藤貫首



昭和五十八年に京王電鉄株式会社が寄進した春日燈籠が夕闇に浮かぶ

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

# 観音菩薩の宗教 (69)

## 如意輪観音（その7）

起源および展開に不明な点の多い如意輪観音であるが、すでに記したように造像ではインドのパーラ王朝時代（八～十二世紀）の六臂像が最古の作例と指摘されている（拙稿「観音菩薩の宗教」）。これに対し日本では二臂像の如意輪観音が六臂像に先行して奈良時代に信仰され、造像されていったとする「定説」があった。しかし仏教美術史家の井上一稔は、奈良時代の如意輪観音とされる滋賀・石山寺の二臂の木造半跏像や、同じく奈良時代作の如意輪観音とされる奈良・岡寺の二臂像を検討した結果、いずれもそれらを如意輪観音像とするには慎重であり否定

的である。そうした考察を踏まえ、井上は「一般的に、奈良時代にはその名前（如意輪観音）＝金岡注）は知られ、陀羅尼も呪せられたが、造像までにはいたらなかつたと考えられる」と述べている（日本の美術 No. 312 「如意輪観音像・馬頭観音像」至文堂、一九九二年、二六〇～二八頁）。

奈良時代に看病禪師と称された慈訓や良弁や安寛も、天平勝宝八年（七五六）、聖武天皇の治病のために如意輪陀羅尼を誦したが、それは陀羅尼信仰ともいって、如意輪菩薩そのものへの信仰とは異なるものであった（拙稿「観音菩薩の宗教」）。これに先立つこと十九年、天平九年（七

一二年）に至ると弘法大師・空海が唐に渡り、

本格的な密教を日本に齎した。日本密教の解釈に

とができる。

平安時代に至ると弘法

大師・空海が唐に渡り、

本格的な密教を日本に齎した。日本密教の解釈に

とができる。

印度學佛教學研究』15

○頁）。要点を述べれば、

如意輪菩薩そのものへの

信仰は、天平期宮廷仏

教の大きな特色と見ること

ができる。

如意輪菩薩そのものへの

信仰は、天平期宮廷仏

教の大きな特色と見ること

山の尾根伝いに小仏峠と  
いう峠があつてなあ、そ  
の峠には関所も置かれて  
いたと。峠の近くには小  
さな地蔵が安置され、村  
の家からは小仏地蔵様と  
崇められていたと。  
ある月明かりの真夜中、  
薬王院の境内に住まわつ  
ていた烏天狗が小仏地蔵  
の処へやつてきて、「おい  
小仏よ！お前は何時も小  
さい地蔵と言われている  
けど大仏になつて世の中  
を見渡したくねえかい」  
と耳打ちしたと。すると  
小仏地蔵は「大仏になり  
たくともなれないのさ！  
その大仏はどこの国にい  
るの！」と言つたつて。  
そうしたらなあ烏天狗  
はなあ「お前様の何百倍  
もある大仏様がなあ、西

## 小仏様と大仏様

創作書おろし

# とんとん大仏様

「うことじやよ」その話を聞いた小仏地蔵は矢も楯も堪らなくなり、その夜のうちに西国へ旅に出たつて。

小仏地蔵は野を越え山を越え一生懸命歩いたと。途中嵐で飛ばされた小枝に乗つて漕ぎながら大川を渡つている時に大きく口を開けた魚にパクリと飲まれそうになつたり、狼に襲われそうになつた時だつたと。それでも何ヵ月も頑張つて歩き続けやつとの思いで奈良の都近くに辿り着いたつて。

するととなあ、西の彼方にそれはでつかい大仏様の顔が、ニヨキツと伽藍の合間に見えたつて。小

き、駆け寄つて見ると大  
仏様の小指ほどしかな  
かつたと。  
そして大仏様に声をか  
けたが、聞こえなかつた  
ので大仏様の手の平まで  
登り、大声で言つたと。  
「私は小仏峠を案内して  
いる武藏国から来ました  
小仏地蔵です。貴方がこ  
んなに大きくなつたのは  
何故ですか！お教え下さ  
い！」すると大仏様は  
なあ、「私は奈良東大寺  
の毘盧遮那大仏である。  
全国から金銀銅を集め  
民に威儀を示すために作  
られたのじや。それにし  
てもどうやつてここまで  
來たのじや」小仏地蔵は  
苦労したことや楽しかつ  
たこと、道中の美しい風  
景などの一部始終を話し  
たと。大仏様はなあ「私  
も武藏という国に行つて  
みたいなあ」と言うと小  
仏地蔵はなあ「ぜひ私の  
国に来てください！日本  
一高くて美しい富士山も  
見られます」と言つたつ  
て。そして帰りは中仙道

八王子に着き、土産話に奈良や京の都の話をしたと。そして、小仏地蔵が帰つてから七日程過ぎた夜中のことだつた。西の彼方からドンドラスンドスンと響く音が聞こえてきたんだと。小仏地蔵が寺から外へ出て見ると大仏様がニヨキリと立つてゐるではないか。

小仏地蔵がびっくりして尋ねると「武藏国が見たくて着いたわい、時に小仏は何処にいるのじや」小仏地蔵は待つていたとばかりに小仏峠周辺を案内した。「小仏峠は人の足になります」と説明すると、大仏様はびっくり



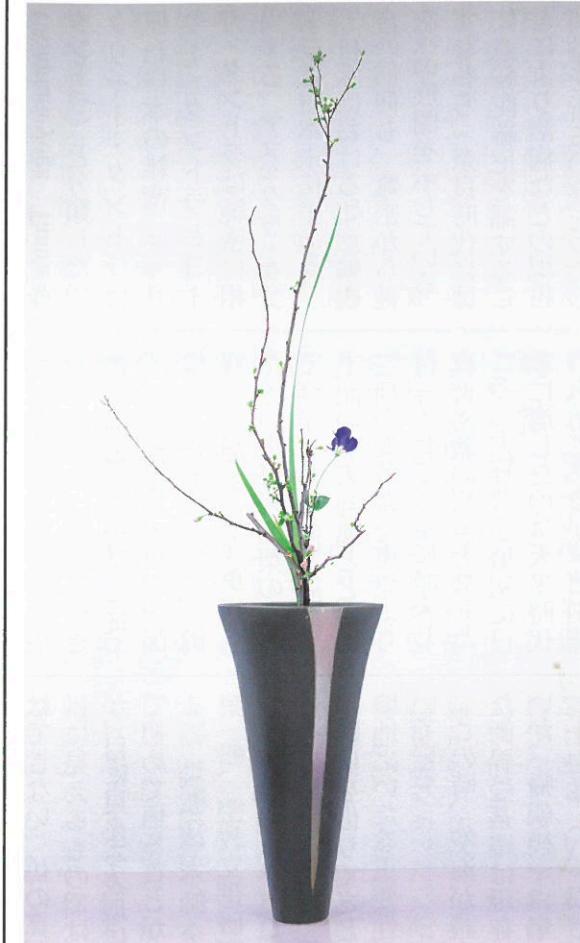
新編武藏風土記稿『小佛宿圖』より  
(国立公文書館デジタルアーカイブス)

九月に入ると、秋らしいな」と感じる日も多くなつてきます。『秋らしさ』というのは、色々なところで感じる事ができると思います。今回は植物の『色』に夏の名残りと秋への憧れを込めて生花正風体を生けさせて頂きました。

気持ちや感情を伝える力があります。それが植物になると、花の咲く時期や形、質、更にはお花を使用する行事などと結びつき、見る人により複雑な印象を与えてくれます。

て落ち着いていく風情を表現してみました。また緑色の葉であるオクロロウカを取り合わせる事で青々と繁り、風に揺れる夏の植物の力強さを取り合わせています。

秋に入ると夏に元気だった植物が葉を散らし、徐々に枯れていきます。一方では秋に花を咲かせる植物が元気になつてきます。季節にあつた花を生けると、都会では感じづらくなつた季節感をしつかりと感じ取れるようになります。



花材：ボケ、トルコギキョウ、オクロレウカ

ふ  
無事に過ごせた  
今日また一日  
明日につなげる

毎日働いたり、家事をしたり、学校へ行つたり、誰もが自分達の一日を過ごしてあります。それは何気ない日常の姿かもしれません、その中にも発見があるかもしません。

昔の友人から連絡があつた、あの店の食事は美味しかつた、道を間違えてしまつたけど面白い景色が見られた等々。一日の終わりにその日を振り返つてみると、思いの外多くのことをしているものです。

平穀無事に見える日々の中で出会う新たな発見、一日一生で臨み、充実した人生を生きていくたいですね。

反省志

# いけばなの心

# いろは

華道教授 佐藤 宗明

## 天狗の落し文

■健康登山者投稿作品■

## 季節の絵手紙「雨によく似合う」

八王子市 栢谷怜子 様



## 一步一歩煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

## 二十段 人の意見に流されぬこと

「和而不同」という言葉があります。人と協力をしても意見や態度は同じにしないという意味です。優れた人の意見を参考にすることは必要ですが、その考えに同調して流されず、自分の考えを持つべきという教えでもあります。

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

二十段 人の意見に流されぬこと

「和而不同」という言葉があります。人と協力をしても意見や態度は同じにしないという意味です。優れた人の意見を参考にすることは必要ですが、その考えに同調して流されず、自分の考えを持つべきという教えでもあります。



### 鎌倉河岸の開帳世話人が寄進した獅子

開帳にあたつては元文の出開帳と同じ鎌倉河岸へ同千代田区内神田二丁目の講中が世話人を務め、頭とうりを取六名がこの年永代護摩檀家となつている。隣接

開帳場の賑わい

事執行であつた上柳田村旧家の日記によると、三月五日の出発前日は子息が登山し泊まり込みで準備にあたつてゐる。六日、袴着用の村役人らの見送りを受け、飯縄大権現は江戸へ出立した。

四

はたのののりうへ、音羽山船十六、清川

参詣に訪れる人衆に出店や芝居小屋、賑やかないびつなつた。開帳は二〇日をともない、六月閉帳した。現在現堂へ登る石階段ある獅子・狛犬年、鎌倉河岸のらが寄進したとある。江戸出開帳も夥しく、決し期待できるもの限り、この出開帳の立派な獅子・狛犬かつたと言われる功裏に閉幕した像に難くない。

**註 1** 寺社奉行として寺社行政を司る。開扉した

**註 2** 安置する厨子の開縁取るようになること。

**註 3** 浄瑠璃の味線の伴奏で節物語りする芸能のことわり。史料の引用について読みやすく原文をとどめています。

の日延べ  
月五日に 小屋が並  
飯縄権 ベントと  
の途中に の世話人  
は、この ものであ  
帳は出費 て収益が  
のではな るが、こ  
るが、こ 犬を見  
開帳が成 ことは想  
ることは想

参詣に訪れる人出をあてに出店や芝居小屋が並び、賑やかなイベントとなつた。

開帳は二〇日の日延べをともない、六月五日に閉帳した。現在、飯縄権現堂へ登る石階の途中にある獅子・狛犬は、この年、鎌倉河岸の世話人らが寄進したものである。江戸出開帳は出費も夥しく、決して収益が期待できるものではなかつたと言われるが、この立派な獅子・狛犬を見る限り、この出開帳が成功裏に閉幕したことは想像に難くない。

する三河町二丁目の太田屋徳兵衛は古くからの檀家とのことで、その信心が特記される。同町からも世話人七名が出たが、信頼できる協力者の存在が大きかつた。

明けて正月一二日、高尾山最寄りの上柄田・上長房・下長房各村の村役人が呼び出され、開帳への協力依頼を受けた。山内での居開帳と同様、近隣と一体になつての行事執行であつた。上柄田村旧家の日記によると、三月五日の出発前日は子息が登山し泊まり込みで準備にあたつている。六日、袴着用の村役人らの見送りを受け、飯縄大権現は江戸へ出立した。

赤地金欄鶴亀模様の戸帳、同じく三井越後屋から毛氈二〇枚、八王子宿から護摩壇と真鍮仏具、神前修法器が寄進されている。さらには、「高尾山」の額、幕、香炉、燭台、抹香など開帳場で必要な什物類が講中や信徒による寄進で準備されていた。

鎌倉河岸からは「四神大幟二本」とある。四方の守護神（白虎・朱雀・青龍・玄武）の形状は不明。幟旗は草加宿の大川清左衛門と近隣の稗田村新井孫助、五日市講中の川越北町綾部利右衛門、天神銅鳥居前の縁日商人中からも寄進され、講中や信徒の存在感が示された。大小の提灯合計六四張の寄進者には、葺屋町市村座の振付師・役者中、堺町中村座役者中、木挽町森田座役者中、常磐津<sup>3</sup>の師匠・門弟ら複数が名を連ねているのが印象的である。寺社の出開帳は芸能関係者の格好の宣伝の場であつたようだ。開帳場付近には

参詣に訪れる人出をあてに出店や芝居小屋が並び、賑やかなイベントとなつた。

開帳は二〇日の日延べをともない、六月五日に閉帳した。現在、飯縄権現堂へ登る石階の途中にある獅子・狛犬は、この年、鎌倉河岸の世話人らが寄進したものである。江戸出開帳は出費も夥しく、決して収益が期待できるものではなかつたと言われるが、この立派な獅子・狛犬を見る限り、この出開帳が成功裏に閉幕したことは想像に難くない。

**註1** 寺社奉行の配下として寺社行政を司つた。

**註2** 開扉した仏像を安置する厨子の開口部を縁取るように覆う幕のこと。

**註3** 浄瑠璃の一種。三味線の伴奏で節をつけて物語りする芸能。

**おことわり** 本連載では史料の引用について、適宜、読みやすく原文に手を加えています。



歌川広重『江都名所 湯しま天満宮』(国立国会図書館デジタルコレクション)

喜見院

喜見院において秀神は、明年の春、境内において飯縄大権現の出開帳を執行することを依頼している。開帳とは、一定の期日、本尊を公開して信徒との結縁の機会とすることだが、繁華な都市に出現しておこなうのが出開帳である。各地の寺社が修復費などの勧進を理由に江戸で出開帳を執り行っていた。

いおり、食糸不休現が  
びに本地不動明王の出開  
帳を実施したいと記され  
ている。八月二〇日は新  
暦で九月二八日のこと。  
實際、前号で取り上げた  
九月付の「当山絵図面  
下書」には破損の状況が  
記されており、台風によ  
る被害が生じていた。

戸出開帳だった。三三ヶ年よりはかなり長い五三年が空いたこのタイミングで秀神が出開帳の執行を決めた意図はどこにあつたのだろうか。実際に前号の堂社書上には、薬師堂が「向拝当戌八月二十日大風にて大木吹き倒れうつぶし申しそうるう、當時普請に取り掛かり」とあり、八幡・天照太神・春日の三社と御供処も「先年大風の節、大木吹き倒れうつぶし、當時はござなく」と記されている。境内ならびに諸堂

十八世秀神3 江戸湯島出開帳

明治大學博物館

卷之三

45

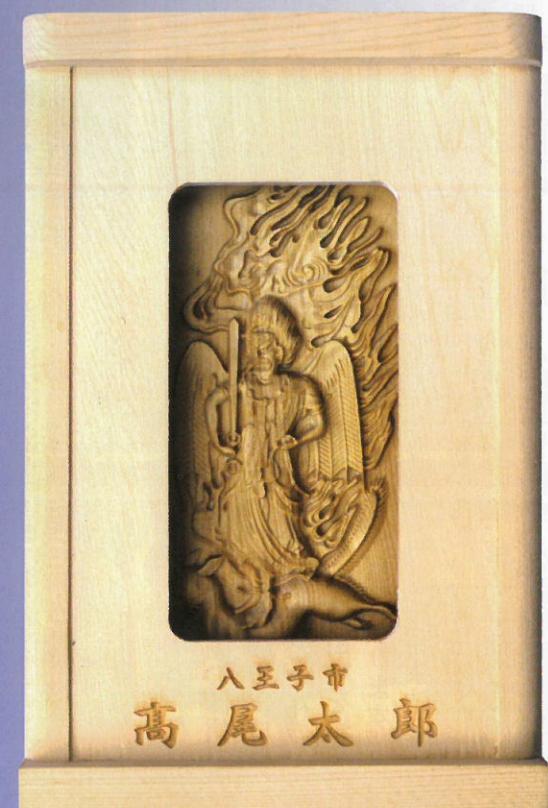
寛政二年（一七九〇）

ね三三年の周期、五〇  
〇六〇日の日数という制

とだと、結局、十一月七日になつて松平紀伊守信道宅へ出頭。奉行に相対する脇で役人が願書を読み上げ、その場で差し許すとの返事を得た。

**註 3** 浄瑠璃の一種。三味線の伴奏で節をつけて物語りする芸能。

**註1** 寺社奉行の配下として寺社行政を司つた。  
**註2** 開扉した仏像を安置する厨子の開口部を縁取るように覆う幕の



高さ13.5センチ 横幅9センチ

御納佛冥加料

一体

五萬円

## 御本尊・飯縄大権現様との御縁を深める

## 大本堂内 結縁「内陣御納佛」奉安のご案内

高尾山では、御信徒様と高尾山御本尊・飯縄大権現様との益々の御縁が結ばれますように、大本堂内陣に御本尊様の御魂を宿した「内陣御納佛」の奉安を皆様にお勧め申し上げています。

お申し込みになりますと、御納佛との尊い結縁のしるとしてご芳名を刻み、大本堂内陣壁面に奉安され、幾久しくご繁榮を祈念するものであります。

また、御納佛が壁画に満たされると、その都度、内陣格子奥に移し大切に安置されるものであります。

この短い上翅がどのような意味があるのかは分かりませんが、露出した後翅は青や赤味が混ざり虹色のような発色をして綺麗で、飛ぶ姿はまるでリコプターのような感じの独特の飛翔になります。

高尾山には近似種のコジマヒゲナガコバネ、オダヒゲナガコバネも産し、花上で見つかりますが本種が一番大型で、今は小仏以外の各地で見つかっていますがコボトケの和名に愛着を持つのは私だけではないと思います。

名前のとおり触角は長く、一番の特徴は上翅が短くて後翅が剥き出しになっている点です。このようないくつかの特徴を持つ種として、ネキと呼ばれるホソコバネカミキリがいて、その珍品度や迫力では劣りますが、ヒゲナガコバネの仲間もなかなか秀逸だと思います。

カエデやコゴメウツギの花に集まることが知られています。



## コボトケヒゲナガコバネカミキリ

167

## 高尾山の昆虫

夏休み。てっちゃんは、お母さんに空き箱をもらって、自由研究のロボットを作りました。最後に牛乳パックで足を作ったら、てっちゃんより背が高くなりました。

でも、てっちゃんは、「小さくとも、ぼくがお兄ちゃんだからな」と、言いました。

そして、太いサインペンで顔を描いて、大きな口も描きました。するとロボットが、いきなり「をききました。

「ハラヘッタ」仕方がないので、てっちゃんは、おやつのクッキーを一枚、口の中に放り込んでやりました。すると、ポリポリとおいしそうに食べて、「モット」と、また口を開けます。

「これ、ボクのお弟」と、てっちゃんが紹介すると、ロボットは、「オナカスイタ」と、オナカスイタ」と、てつちゃんが紹介すると、ロボットは、「オナカスイタ」と、オナカスイタ」と、高ちゃんのポテトフライを、いきなりパクパク食べてしましました。

「あっ。それ、ぼくのポテトフライだぞ」高ちゃんが、かんかんに怒っています。「だめじやないか」てつちゃんは、あわてて口ボットを押さえて、「もう、みんな返してもらうからな」と、言いました。

「おまえなんか、もう知らないからな」と、口ボットは、「モット、モットタバセセテクレナクチヤ、オマエヲタベチャウゾ」と、いきなりパクンとてつちゃんを食べてしましました。

口ボットのお腹の中は、真っ暗です。目が慣れてくると、お腹の中には、クッキーやポテトフライが、いっぱ

いころがっています。

「こんなに食べさせてやつたのに、ボクまで食べちゃうなんて、ひどいや」

てつちゃんは、「もう、みんな返してもらうからな」と、言いました。

口ボットは作つたけど、(わあ。いいな。)と思つたけど、

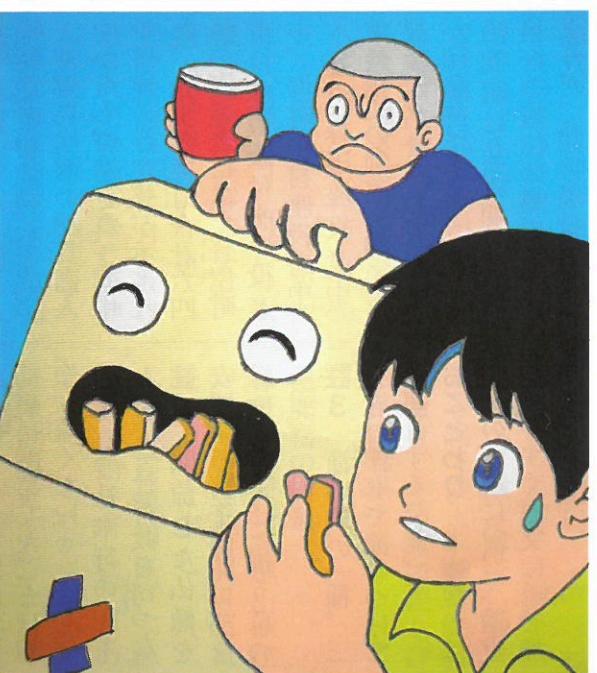
「口ボットは作つたけど、ぱらぱらになつちゃつた。だから、もう一度作らな

くちや」と、いいました。

「もう一度? 大変ね」(うん。変だから、今度は、くいしんぼじゃないロボットを作るんだ)といつて、にこうと、笑いました。

「もう一度? 大変ね」(うん。変だから、今度は、くいしんぼじゃないロボットを作るんだ)といつて、にこうと、笑いました。

(おわり)



# 高尾山で味わう豊かな自然の恵み



## 精進料理に関するお問合せ

TEL 042-661-1115(代表)  
9:00~16:00

高尾山薬王院では、僧侶や山伏が修行の際に食す肉や魚を用いない「精進料理」を御信徒の皆様に提供しております。精進料理には質素なイメージがあるかもしれません、旬の恵み、自然の味を大事にするという伝統を守りながら、現代的な創作を加え、遠路よりご参拝頂きました御信徒様をお出迎えするため、心を込めてお作りしております。

近頃では健康志向が高まり、野菜中心の生活が見直されております。肉や油物などの食事も美味しいものですが、四季折々の食材をバランスよく食事に取り入れてみてはいかがでしょうか。

当山ではこの精進料理を広く皆さんに味わって頂くためご予約を承っております。

**高尾膳** .. 四千四百円  
**天狗膳** .. 三千三百円

ご予約は二名様より承ります。お子様には別献立でご対応することも可能です。また団体様につきましても、ご予約の際ご相談下さい。

高尾山薬王院では、僧侶や山伏が修行の際に食す肉や魚を用いない「精進料理」を御信徒の皆様に提供しております。

精進料理には質素なイメージがあるかもしれません、旬の恵み、自然の味を大事にするという伝統を守りながら、現代的な創作を加え、遠路よりご参拝頂きました御信徒様をお出迎えするため、心を込めてお作りしております。

近頃では健康志向が高まり、野菜中心の生活が見直されております。肉や油物などの食事も美味しいのですが、四季折々の食材をバランスよく食事に取り入れてみてはいかがでしょうか。

当山ではこの精進料理を広く皆さんに味わって頂くためご予約を承っております。

高尾山薬王院では、僧侶や山伏が修行の際に食す肉や魚を用いない「精進料理」を御信徒の皆様に提供しております。

精進料理には質素なイメージがあるかもしれません、旬の恵み、自然の味を大事にするという伝統を守りながら、現代的な創作を加え、遠路よりご参拝頂きました御信徒様をお出迎えするため、心を込めてお作りしております。

近頃では健康志向が高まり、野菜中心の生活が見直されております。肉や油物などの食事も美味しいのですが、四季折々の食材をバランスよく食事に取り入れてみてはいかがでしょうか。

当山ではこの精進料理を広く皆さんに味わつて頂くためご予約を承っております。

**高尾膳** .. 四千四百  
**天狗膳** .. 三千三百円

ことも可能です。また団体様につきましても、ご予約の際ご相談

## 郵送御護摩申し込み受付について

下記のQRコードか  
URLから  
検索ができます。



[instagram.com/takaosan\\_yakuoin/](https://www.instagram.com/takaosan_yakuoin/)

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。遠方の御信徒や、参拝できない御信徒の皆様の為に、御護摩札の郵送をお受けしておきます。

手紙、FAX等での申し込みをお願いしておりますが、「高尾山薬王院公式ホームページ」内の御護摩祈禱の御案内からインターネットにて、直接お申し込み頂くことが出来ますので、是非ご利用頂きますようお願い申し上げます。

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。

御護摩修行とは、護摩木という特別な薪(ホモ)を大導師が御護摩の炎の中に投げ入れし、あらゆる煩惱を焼き淨(ヨシナフ)めるために行われます。そして、御信徒の皆様の祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行つた方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯縛大権現」とお唱え下さい。

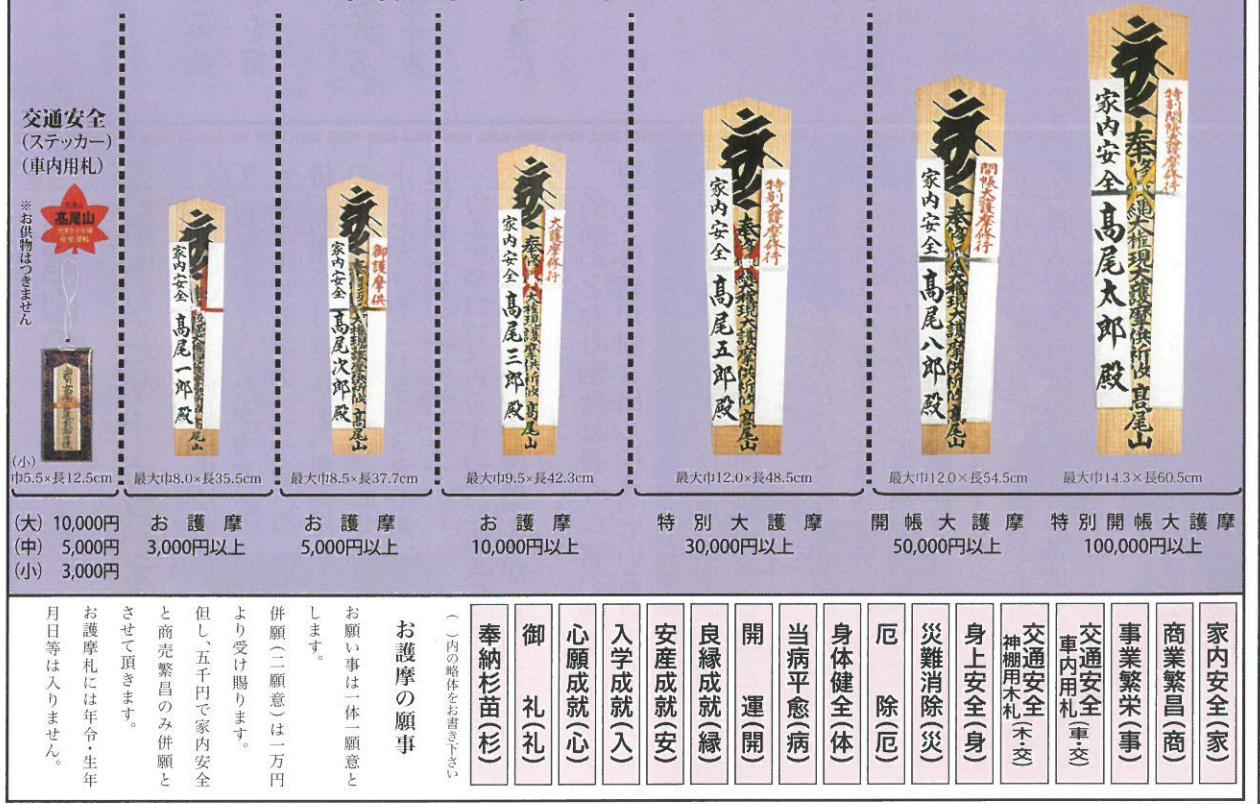


古来より高尾山の御信徒は、自分のお願ひが成就した時に感謝とお礼の意味を込めて、苗木を奉納する習慣があります。今日でも、お杉苗奉納は続いており、参道の大杉原には、杉苗奉納者の芳名板が、板塀のよう並んでおります。

高尾山では寺法において「殺生禁断」を第一義に、むやみに草木を切ることを厳しく戒めてきました。私達は信仰心と共に大自然を守り、また大自然から守られつつ共存共栄し、今日の景観を造りあげてきたということを、忘れてはならないと思します。

尚、毎年十二月十日までに、一万円以上を御奉納頂いた方のお名前を、翌年より掲示させて頂いております。

# 高尾山藥王院の御護摩札



## 第一百一十一回 高尾山信徒峰中修行会 十月七日(土)

### お申し込みについて

【信徒峰中修行会】を、十月七日の未明からその日の夕方にかけての、日帰り行程で開催致します。

夜明け前の厳かで靈気に満ちた高尾山で回峰を行ない、山頂にて御来光を迎える、薬王院で朝勤行や法話、また有喜苑での柴燈大護摩供に参加してみませんか。

ケーブルカーは利用せず山麓から練行を行います。適宜休憩は設けますが、舗装されていない暗い山道を一定のペースで二時間程度歩く自信のある方のみご参加下さい。

また、集合時間は厳守となります。遅刻の場合には対応は致しかねますので、その旨ご了承下さい。

※お申込頂きましたら詳細を記した要綱を締め切り後に発送致します。

※琵琶滝には入滝しません。

※当日の天候や状況によって行程変更や中止となる場合がございます。

※お申込頂きましたら詳細を記した要綱を締め切り後に発送致します。

募集期間 八月十七日～九月二十九日(必着)

八月一九三一八六八六 八王子市高尾町二二七七

大本山高尾山薬王院 八十八大師係

※申込み後、順次請書(行程表・持ち物等)をお送り致します。



## 宗祖弘法大師御誕生壱千二百五十年記念 高尾山内八十八大師巡拝のご案内

二つのグループに分け、途中(山上十一丁目茶屋前第十七番札所)で合流し、一緒に巡拝いたします。なお、本年は、宗祖弘法大師御誕生壱千二百五十年という尊い節目の年でございます。そこで前回の五月同様に大師堂において当山貫首大導師の下、慶讃法要を厳修致します。

A、不動院から蛇滝を経由して薬王院まで歩く

B、ケーブルカーを利用する(蛇滝周辺のお大師様は巡拝出来ません。)

また、ケーブル代金は自己負担になります。

日 程  
十月十日(火)

行 程  
山麓不動院→蛇滝→仏舎利塔→本堂(御護摩修行)→

大師堂(慶讃法要)→坊入(昼食)→一号路(下山)→不動院(閉会式)

参 加 費  
五千円(昼食代・保険代含む)

集 合 場 所  
山麓不動院(八時集合)

申込方法  
ハガキに郵便番号、住所、氏名、氏名のふりがな、生年月日、性別、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。

※また、ホームページ・QRコードからお申込みする事も出来ます。必要な事項をフォームに入力して下さい。

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)	八王子市 石田 博司
小平市 富里市 新座市 小平市 伊勢原市	八王子市 小池 まり子
坂戸市 森 照森 関 道雄	八千代市 稲越
あきる野市 川崎市 比企郡 日の出町 小平市 塚本みやげ店	高尾山健康登山者一同
札幌市 阿部 金子 フミ子	眞久 真美香 千明 藤夫 幸一



## 七五三身上安全祈願

「七五三」とは、皆様方の可愛いお子様が、これから健康にすくすく育ちます様にと、身上安全の願いを込めて寺社にお参りするという行事です。

高尾山でも御本尊・飯縄大権現様の御加護を願い、毎年多くのお子様がお参りに訪れております。十月～十一月の間、山上「御護摩受付所」にて、「七五三祝い子育て祈祷」を受け付けております。

どうぞ皆様で御来山なされますよう、ご案内申し上げます。

※十一月中の土・日・祝日には大変な混雑が予想されますので、時間に余裕を持って早めの御来山をお勧めしております。

高尾山報助成金志納者  
御芳名(順不同・敬称略)

八王子市 石田 博司

八王子市 小池 まり子

八千代市 稲越

高尾山健康登山者一同

上七軒舞藝妓艶	厚木市 荒井 一雄
露天茶道酒花園	
上七軒舞藝妓衆	夏はビール園のご奉仕と仲々信仰心深き…
天満天神大自在	【技芸上達】の神様菅原道真公は、何とお座敷に上がらずして
北野白梅町	風月の極致へと我をお導き下さるではないか!
北野白梅町	善哉、善哉…



申込方法は左記の方法どし、お電話での申込は承ります。

1 ハガキに必要事項【郵便番号・住所・氏名とふりがな・性別・生年月日・当日連絡のつく携帯電話番号・緊急連絡先(統柄)・アレルギー】を明記してお送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内(九時～十六時迄)に信徒峰中修行会係までご連絡下さい。

●下記のQRコードからお申込み下さい。

1 お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内(九時～十六時迄)に信徒峰中修行会係までご連絡下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内(九時～十六時迄)に信徒峰中修行会係までご連絡下さい。

毎日の  
お護摩奉修時間

午前9時30分

〃 11時00分

午後0時30分

〃 2時00分

〃 3時30分

ご講中・団体等  
御相談下さい。

## 登山だより

## 十月行事日程

二十八日

奥之院開扉供養

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

二日、十四日、二十六日  
弁天様御縁日

四日

中興俊源大徳忌

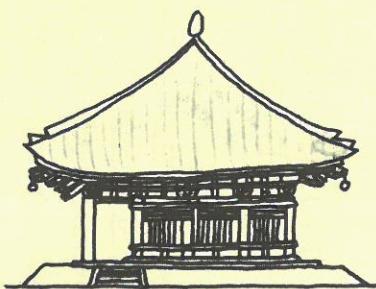
二日、三十日

御詠歌勉強会

七日  
(十時山麓不動院)三十一日  
滝じまい(十二時半山麓不動院)  
「語り部の会」

二十九日

高尾山とんとんむかし

月例写経会  
(十三時山麓不動院)  
(十時奥之院)

大般若經を守護する十六善神の図

神徳報謝百味飲食供  
御志納のおすすめ毎月二十一日 午前九時(於大本堂)  
御志納金 一口 三千円以上

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若經六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送つております。

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送つております。引き続いてご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申上げます。

高尾山報助成金  
御志納のお願い

発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115㈹  
FAX(042)-664-1199  
発行人 犬山秀康  
編集人 菅井倫浩  
印刷 ヒラツカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円

下記のQRコード  
から高尾山薬王院のホームページに  
アクセスできます  
  
https://www.takaosan.or.jp

